

ねん がつなの か
2024年1月7日

しゅ こうげん しゅじつ
主の公現の主日

きくち いさおだい しきょう
菊地 功大司教 メッセージ

あたら ねん
新しい年がはじまりました。この一年が神の平和が支配するときとなりますように祈ります。

きょうこう
教皇フランシスコが「ラウダーテ・デウム」に記すように、一人でも多くの人が「わたしたちの住まいである世界との和解のこの旅路に加わり、それぞれ固有の貢献で世界をより美しく」する務めに目覚める年となりますように。

せんせいじゅつ がくしゃ
占星術の学者たちの言葉を耳にしたとき、ヘロデ王の心は乱れ、不安に駆られたと福音は記しています。救い主の誕生の告知とは、本来であれば喜びを持って迎えられたことでしょう。しかしこの世の王として人々を支配しているヘロデにとっては、自らの立場を危うくする脅威でしかありません。神の支配が実現することで、自分は権力を失うことになるのです。この世界で権勢を誇り権力の行使を謳歌する者は、真の世界の王である神の支配の実現の可能性を耳にして、喜びではなく不安しか感じることはできません。真理の前では、自らの不遜さが明らかになってしまうからに他なりません。

「ラウダーテ・デウム」の終わりに、教皇フランシスコは、「人間は、神に代わる存在になろうとするとき、自分自身の最悪の敵になる」と記しています。この世の権力に溺れ、神の存在を忘れたとき、その自分自身の選択が、結局のところ自らのいのちを危機にさらすような状況を招くのだと、教皇フランシスコは、共通の家を守るための環境問題への取り組みを先送りしようとする人類の怠慢を指摘してやみません。

きょうこう
教皇は、「本物の信仰は、人間の心を強めるばかりでなく、生き方を変え、わたしたちの目標を変え、他者への関わりや全被造界との関わりを照らし導いてくれることを、わたしたちは知っている」と記します (61)。

せんせいじゅつ がくしゃ
占星術の学者たちは、旅路の困難を乗り越え、光に導かれて、救い主のもとにたどり着

き、^{たからもの}宝物をささげました。^{やみ}闇のなかにあつて、^{かがや}輝く^{ひかり}光こそが^{きぼう}希望を^{しめ}示していることを
^{かくしん}確信した^{がくしゃ}学者たちは、^{かみ}すべてを神にささげて^{かみ}神の^{しはい}支配に^{したが}従うことを^{ひょうめい}表明し、^ごその後も^{かみ}神
の^{みちび}導きに^{したが}従って^{こうどう}行動していきます。

^{かみ}神の^{ひかり}光に、^{ほんもの}すなわち^{しんこう}本物の^{みちび}信仰に^{せんせいじゆつ}導かれたとき、^{がくしゃ}占星術の^い学者たちは^{かた}生き方を^か変え、^{みちび}導
きに^{したが}従うことで、^{しんり}真理の^{ひかり}光へと^{とうたつ}到達しました。

^{きょうかい}教会は、^{くらのやみ}暗闇に^{ひかり}光として^{かがや}輝く^{ひと}人となられた「^{かみ}神の^{ことば}言」の^{みちび}導きに^み身を^{ゆだ}委ね、^{つね}常に^{へんか}変化
を^{おそ}恐れることなく^{ちようせん}挑戦を^{つづ}続ける、^{ひかり}光をあかす^{そんざい}存在であり^{つづ}続けたいと思^{おも}います。